

れふえらるとぴっくす

## 千葉県がんセンター図書室

芳賀 節子

### 2007年12月現在

1972年開設の千葉県がんセンターは事務局・医療局・看護局・研究局に分かれ、その図書室は、2階にあり、広さが219.6㎡、約9,000冊の単行書と23,000冊の製本雑誌。予算の4分の3以上を当てて購入する洋雑誌96タイトル、残りの4分の1の中から購入している和雑誌90タイトル。かつては医局であったところも加えて現在の図書室が出来上がったと聞きますが、大きな窓からは玄関のようすや駐車場が見渡せ、医局・病棟・検査部・階段・エレベーターの近くにあるおかげで、案内なしでも多くの方に知っていただける、そのような所に位置しています。

開室時間は月 - 金の9:00 - 19:45、司書二人で勤務。時間外の利用希望者は守衛室で管理している鍵を借りて入ります。検索・閲覧・複写・・・貸出し以外は自由です。

利用者は、職員・研修生、あとは相談に応じます、というところでしょうか。「忙しくて読む時間がないよ」という声が聞こえる中、直接来室しての利用者は、職員でも新しい人やコ・メディカル、研修生が圧倒的に多くなっていることを感じます。

文献検索用に、と用意したWeb用端末ですが



(2台)、実際は盛んになった看護研究のために占領されることが多くなり、ことし、PowerPoint入り端末(1台Web接続)を設置することになりました。

契約しているデータベースは「医中誌 Web」、それから病院局の契約で全県立病院が使える「JDream II + メディカルオンライン」毎月届くメディカルオンラインの利用状況を見ると、曜日・時間に関係なく各病院で使われ、その数は毎月1,000件以上です。(全病院の合計)

利用者の求める資料が当室にないとき、まず他の県立病院の所蔵を確認します。それから千葉大はじめ近隣の図書館、全国の病院図書室、大学図書館・・・できるだけ早く低料金で入手できることが条件です。とくに海外からの研修生で、料金を心配しながら相談に来る姿をみると心が痛みます。また、看護研究がさかんな中で県内の公共図書館のお世話になることも増えました。「千葉県内図書館横断検索」は、私たちにとって、なくてはならないページです。

### 2008年～

「外来化学療法室拡張のため、図書室のスペース縮小」、夏頃からそれとなく聞こえてはいたものの、心配しなくてもよいことになったはずでいた10月末、突然言い渡されました。関係するいくつかの部署が集まり現在相談中ですが、図書室は現在の3分の2弱くらいになる可能性大です。

私たちに与えられた課題は、「スペースは縮小しても機能は現在と同じ、いやそれ以上に」です。保管場所のこともあり、かなりのものを廃棄しなければならないと思われます。が、廃棄したことにより、利用者ができるだけ不利益を被らなくてすむようにしたい、また、「ここはが



んセンター図書室である」ことを考えて廃棄リストをまとめた、と思っています。

一時はどうなることかと思いましたが、とにかく春には完成しているはずなのです。

この原稿が活字になるころ – 私たちも楽しみにしようと思っています。

(千葉県がんセンター・司書)

## 千葉県がんセンター にとな文庫

下原 康子

### 施設・運営

「にとな文庫」は、「仁戸名町」という地名にちなんで名づけられた千葉県がんセンターの患者・家族のための医学・医療情報図書室で、2006年5月に開設されました。誰もがアクセスしやすい外来棟1階にあります。面積30㎡の正方形の部屋で、中央のテーブルを囲んで書架5連、掲示板、ソファ、雑誌架、事務机、複写機が設置され、正面の棚には、パンフレットボックス、Web用端末2台、湯茶セットなどがあります。藤城清治の影絵や花柄のカーテンで室内をアレンジし、音楽を流し、コーヒーサービスを行うなど、なるべく病院らしくないくつろいだ雰囲気演出に勤めています。

にとな文庫が所属する「患者相談支援センター」は医師1名、看護師3名、メディカルソーシャルワーカー2名、臨床心理士3名、音楽療法士1名、ピアカウンセラー（患者体験者）2名、事務1名、司書1名。総勢14名の多職種にわたるメンバーから組織された「患者・家族支

援チーム」です。それぞれが専門性を発揮しつつ、効果的に連携をとりあって患者・家族の多種多様な相談や要望に応えていこうと日々奮闘しています。ユニークなのは、この医療チームの中に医療の専門家ではない、むしろ患者の立場にいるピアカウンセラーと司書（がん体験者でもある）が加わっていることです。患者支援に対する視野の広さと懐の深さを示すもので、担当者の一人として誇りに感じています。とはいえ、この試みもまだ始まったばかりです。

サービス時間は今のところ、月～金 12:30～16:30 ですが、10:30からの延長を検討中です。スタッフは月～木曜日が司書1名、金曜日



がボランティア1名で、両名ともにエプロン姿で勤務しています。

### 資料・サービス

現在の図書の所蔵は約1500冊。がんに関する医学・医療関連図書が主です。専門書（医学書・看護学書）と一般書の比率は半々くらいです。

「癌取り扱い規約」とがんの「診療ガイドライン」は最新版を揃えメンテナンスに留意しています。看護学書や看護雑誌の特集は患者図書室に適しています。高度で難しい内容でもその表現が比較的平易で、また、患者や家族が知りたいと思うことは看護の視点から書かれていることが多いからです。パンフレットからレベルの高い医学情報まで幅の広い最新の情報提供を念頭に置いて収集しています。

一方で、患者を励まし闘病を支えるための本も重要です。がん闘病記、死生学、医学・医療関連の一般書、大人が読んでもいい絵本などを置いています。読み応えのある本を次々に読破した患者さんから目がさめるような感想を聞いたときほど患者図書室で働く醍醐味を感じることはありません。良書の収集は患者図書室の最重要課題です。

継続雑誌は5誌ですが、看護雑誌のがんの特集は単発で購入しています。よく読まれるものとして新聞の切り抜きがあります。情報提供につなげるために記事内容に関連する資料を念頭に置きながら掲示します。パンフレットは持ち帰れるので好評ですが、評価が難しく収集はまだまだこれからです。

利用者は、外来・入院患者とその家族およびセンターの全スタッフです。現在、一日の利用者は15～20人、貸出冊数は、3～6冊です。地域住民への開放は行っていません。とはいえ、わざわざ来られた方を拒むことはありません。閲覧、貸出、複写、インターネット閲覧、レファレンスなどおなじみの図書館業務の他に、特

徴的なのはスタッフ用の病院図書室と連携していることで医学雑誌論文の文献検索および文献コピーの提供ができることです。利用者の情報要求は多種多様でそのレベルも異なります。ときには医学論文でしか応えられない疑問や質問を投げかけられることもあります。医学文献を提供するまでに至った事例はまだ数件ですが、受けとった患者さんの感謝は忘れがたいものでした。

インターネット端末2台の無料提供はたいへん喜ばれています。玉石混交のインターネットの中から良質な情報を選びナビゲートしていくことも患者図書室の大切な役割だと考えています。とこな文庫では「がんに関するリンク集」をWebで提供しています。



(千葉県がんセンター・司書)